

開講科目名 Course	行政法研究 (B) / Administrative Law(B)
時間割コード Course Code	14110
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3
主担当教員 Main Instructor	市橋 克哉
科目区分 Course Group	公法関係科目群
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	市橋 克哉 (法学部)
授業の目標	<p>この講義では、誤った行政活動の是正を求め、または行政活動により侵害された国民の権利利益の救済を求めるための法制の全体像を理解することを目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 行政救済法の体系を理解し、国家補償および行政争訟の諸制度について、それぞれの種類と存在意義を理解することができる。</p> <p>技能の領域 行政救済の諸制度の違いを専門用語を用いて簡潔な言葉で説明できる。</p> <p>態度・志向性の領域 テレビや新聞等で報道される行政事件に関心を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>【授業の概要】</p> <p>行政は法律に従って適法に行われるのが原則です。しかし、現実には、ときに違法または不当な行政活動等によって（ときには適法な行政活動によっても）、私たちの権利利益が侵害されることがあります。そのようなとき、国民の権利利益の保護と適正な行政運営の確保のために、私たちはどのような法制度を使うことができるのでしょうか？「行政救済法」の授業では、この点を詳しく学びます。</p> <p>本授業は対面授業で行います。</p> <p>【授業形態】</p> <p>対面授業。</p> <p>【質問への対応】</p> <p>授業時間内またはオフィスアワーにおいて対応。</p> <p>【その他】</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>

評価方法	<p>【評価】 授業中に2回実施する確認テスト(100%)。確認テストは期末試験に準じた取り扱いを行いますので、追試の実施は特別欠席その他これに準じた正当な理由に限り、証明書を要します(例：特別欠席に該当しない病欠の場合は診療費請求書等の証明できる書類)。</p> <p>【課題等についてのフィードバック】 授業中に実施した課題及び確認テストについては、課題実施後または次の授業で講評・解説等を行います。</p> <p>【出欠に関する注意点】 6回以上の欠席で失格となります。遅刻は2回で欠席1回として扱います。授業開始時刻を過ぎたら、原則遅刻となります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・「欠席」6回以上で失格(評価を受けられず単位を取得できない)とします。 ・「遅刻」2回で1回欠席として扱います。 ・授業開始時刻を過ぎると「遅刻」となり、授業開始時刻から30分を超えると「欠席」になります。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに～行政救済法とは何か～ 2 国家賠償法制度の歴史 3 国家賠償法1条(1)「公権力の行使」 4 国家賠償法1条(2)「公務員」「職務」 5 国家賠償法1条(3)「過失」「違法」 6 国家賠償法2条(1)「公の営造物の設置又は管理」の「瑕疵」(道路) 7 国家賠償法2条(2)「公の営造物の設置又は管理」の「瑕疵」(河川) 8 まとめと確認テスト 9 行政不服申し立て(1)制度の目的と特徴 10 行政不服申し立て(2)審理の種類とプロセス 11 行政事件訴訟(1)制度の目的と特徴 12 行政事件訴訟(2)訴訟の種類とプロセス 13 行政事件訴訟(3)処分性 14 行政事件訴訟(4)原告適格 15 まとめと確認テスト
テキスト	市橋克哉ほか『アクチュアル行政法〔第三版〕』(法律文化社、2020年)
参考書	『行政判例百選1・2(第7版)』(有斐閣、2017年)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間内または授業後に対応します。必要に応じてメール等でも対応します。
フィードバックの方法	授業時間内または次回以降の授業で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1回の授業についての予習・復習は、配布プリントおよび参考書を利用し、各1時間程度を目安とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標(11～17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	